

第41回インナーゼミナール大会
(インゼミ概要)

インナーゼミナール大会とは

インナーゼミナール大会(以下:インゼミ)は、学生を主体とした経済学部ゼミナールの研究成果の発表の場で、ゼミナール間の繋がりを深めることを目的としています。

インゼミは甲南大学経済学会3・4年次の各ゼミ生達が日頃研究してきた成果を発表する場です。今年で41回目になる伝統的な行事で、経済学部最大の行事でもあります。

1回生にとってはゼミ選択の参考に、2回生にとってはゼミ活動の参考に、またその他の方々にとっても経済学に触れられるいい機会になると思います。経済学部生だけでなく、卒業生、ご家族、地域にお住まいの方々など、どなたさまでも大歓迎です。

経済学部生の日々の努力をぜひご覧ください。

日時 2011年12月3日(土)

開場 9:00 開会式 9:10

発表 10:00~15:30(入退場自由)

場所 甲南大学8号館

※インゼミ配布・掲示資料、インゼミ参加要項より抜粋。

(感想 by 学生評議員スタッフ)

私は今回のインナーゼミナール大会には、主に研究発表者として参加しました。初めて大勢の聴講者に自分の意見を発表する場に立ち、発表を行ったことは貴重な経験となりました。

発表の流れに応じて話すスピードを調節し、説明を理解してもらうために話す言葉を的確に選ぶ等。

普段は講義を受講するばかりで聞き手である機会が多いこともあり、その難しさを体感しました。将来的にこのような機会があると思うので、その際に経験を生かすことが出来ると思います。この意味においても、インゼミへの参加は有意義なものであったと実感しました。

今大会初の試みである、「学生による質疑応答の活発化」を重視した発表の時間割について。

私は成功したと思います。理由は率直に、私が聴講していた発表教室での質問数は多く、伴って数多くの議論が展開されていたためです。それほど学生が、発表に対して関心を持ち、かつ考えていたということです。質疑応答の時間は、とても充実したものであったと感じています。

私は次の大会においても、この目的を重視することが良いと考えています。

(D・K)

2011年12月3日。第41回インナーゼミナール大会(インゼミ)当日。7:40 ごろ経済学会コモンルーム前に到着。誰もいない。学生評議員の集合予定時刻は8:10なので当たり前と言えそうかもしれない。

粗方の評議員が揃ったところで、開会式と各教室の準備のため、8号館へ用意を持って移動。

午前セッションが始まるまでの担当は受付(8号館1階)。インゼミパンフレット等を準備する。

午前・午後セッション共に採点者として参加。各発表50点満点で評価。評価項目は15個。良かった点、改善すべき点があれば、書き込めるようになっている。担当教室は8号館1階812教室。嫌らしい考えだが、1セッション140分×2セッション+休憩50分で、謝礼(後日経済学会コモンルームで受け渡し)が図書券4000円分なので、時給に換算すれば4000円×60分/330分で約727.27円。昼休みに8号館2階本部で弁当とお茶(缶)をもらえることを考えると、アルバイトとしても悪くは無いと思う。

インゼミ終了後は片付け。途中で60周年記念式典(インゼミ40年の足跡)に参加。高橋名誉教授による40年前にインゼミを始めた当時の貴重なお話や、パネルディスカッションでOB・OGの方々の自身が学生だった頃の体験談等、興味深い内容満載だった。式典終了後はインゼミレセプションに参加。17:30、甲南大学経済学部長永廣先生の乾杯の音頭により始まった。18:00インゼミグランプリの結果がセッション・教室ごとに発表。悲喜交々と云った様子。宴も酺となってきた。頃合いを見計らい、一足先に経済学会コモンルームに戻る。

20:30 ごろ経済学会コモンルームにて、今回のインゼミを運営していて気付いたことを学生評議員で挙げていく。セッション制の功罪が見事に露出した結果となった。来年度以降、良い所は活かしつつ、悪い所は直していこう。

21:00、経済学会コモンルームを閉室し、本日の業務終了。

これからは、インゼミ報告書等の事務処理や、新入生への入門のしおりの作成等、インゼミ以外の作業がまだ残っている。まだまだ学生評議員の気が抜けない毎日は続く。

(H・O)

12月3日(土)に甲南大学経済学会主催の「第41回インナーゼミナール大会」が行われました。インナーゼミナール大会(通称インゼミ)は、ゼミ所属の経済学部生が中心となって、自分達のテーマに沿った研究内容を発表する場です。私は、学生評議員としてインゼミに参加される方々の補助を行う立場であると共に、先輩方の発表を聞いていました。特に印象に残ったこととして、テーマとして取り扱う内容に関して、メリットとデメリットを互いに考察した上で、自分達の主張したい考えを述べていたことが印象に残り、自分達のゼミIでの発表のときでも応用することが出来ると思いました。また、発表後の質疑応答の時間帯では、多くの方々が質問を行い、発表を行う側と聞いている側、両方にとっていい内容であったと思います。来年は私達がインゼミに参加する番です。所属しているゼミで研究し、ディスカッションやディベートを行い、自分達の研究テーマに沿った発表が出来るようにしなければいけないと改めて感じまし

た。ゼミのようにみんなで協力してテーマに沿って研究するというのも、大学でしか出来ないことの一つであると思います。来年に向けて今からより一層ゼミ活動に取り組もうと思いました。最後となりましたが、インゼミに参加された先輩方、お疲れ様でした。

(S・I)

編集後記

産業が高度化し、技術が進歩していく事には常に功罪があります。

工業が発展する事によって、自然(気象・土地の滋味)の制約に縛られる事なく、生産を行う事が可能になりました。しかし、チャップリンの映画「モダンタイムズ」の世界ではありませんが、画一的・単一的な仕事が増え、まるで人間が機械の一部のようになってしまうという側面が出て来ました。

無論、傍から見れば単調で退屈そうな仕事であっても、働いている本人がそれに生きがいを持って楽しんでいる場合もありますから、必ずしも単純労働の増加が、近代化の問題点とは言えません。そうは言うものの、嫌がる人が多いのは事実でしょう(食わず嫌いならぬ、やらず嫌い…?)。

工業社会から情報・ネットワーク社会への移行も同じ様に功罪があります。

企業からしてみると、事務作業に関わる人件費を減らす事が出来るので、経費削減に効果があるでしょうが、博覧強記で、事務作業を肅々とこなす事に長けている人にとっては、お株と行き場を失う結果となりました。

インターネットの普及は、大量の情報を瞬時に集める事が出来、逆に1ヵ所に居ながら、世界中の人に情報を届ける事が出来るようになりました。その反面、持つ者持たない者の格差(デジタルデバイド)や、知的財産権、プライバシーの侵害等の

問題が起こるようになりました。

こうした事を踏まえながら、今回を含めた過去3回のインゼミを観て思ったところを述べるとしますと、発表方法はパワーポイント等のPCソフトの使い方が向上した事によって、見栄えが良くなった面はあるかもしれませんが、しかし、発表内容については、年々向上しているかといえば、必ずしもそうとは言えません。確かに、ハッとさせられるような発表の仕方をするゼミはあるのですが、そのゼミが何を主張したいのかが伝わったゼミは殆どありませんでした。厚かましいとは思いますが、もう少し辛口に言いますと、自分たちの考えをどうやって伝えるかではなく、インターネットや本の情報をどれだけ上手に纏めるかに重点が置かれていたという事です。

技術が高度に進歩する事で、出来る事は増えたかもしれませんが、それを使いこなす事、普及させる事に神経を集中させて、それを使う事、普及させる事が本当に合理的かどうかという判断を置き去りにしてしまっていると思うのですが、皆さんはどう思われますか?そんな小難しい事は判らないと切り捨てるのは勝手ですが、自分で考え無い人は他人に振り回される事に文句を言う資格は無いと思いますよ。

(H・O)

